

第46回日本粘土科学討論会報告

第46回粘土科学討論会は、2002年9月19、20日の二日間、東北大学農学部講義棟を会場に開催されました。空調のない部屋が大部分でしたが、秋の彼岸入りにかかり、暑さも和らぎ、天候にも恵まれ、スケジュールはほぼ順調に進みました。また、以下のように2005年に東京で開催予定の13th International Clay Conference (ICC) に向けた取り組みが討論会の随所がありました。

討論会前日には例年行われている常務委員会に先立って15.00から13th ICC組織委員会が公開の形で行われました。その後の常務委員会では通常の議事に加えて17th ICCロゴマーク選定の投票を討論会初日に行い、その夜の懇親会で上位投票者を発表する旨話し合われました。

一般口頭発表は初日の午前9時から2会場で行いました。会場は備え付け70席の他に椅子を持ち込みました。しばしば立席状態が発生し、会場のサイズは反省点の一つとなりました。結果的にスライドを使う発表者はありませんでした。一方、液晶プロジェクタ使用の希望もありましたが、トラブル処理の不安から今回の開催委員会側の対応はシンポジウムのみとしました。現段階ではOHPはトラブルが少なく、補助者数も最小で済む口頭発表機材であることを再認識しました。

特別講演は「会長が退任時の討論会では会長講演を特別講演の枠内で行う」との内規に従い、中沢会長により「“Claysphere: past, present and future”の視点から」と題して行われました。特にそのpastの部分において、酸化型大気中では放電等によるアミノ酸の生成は不利で、海水があつてしかもまだ隕石爆撃がかなり頻繁であった40億年前ごろに粘土鉱物と生物有機分子がほぼ同時に多量に生成したのではないかとする新説は多くの出席者を魅了しました。なお、“Claysphere: past, present and future”は13th ICCの標語であり、特別講演とシンポジウムの内容をリンクさせることによりこの日の午後のプログラムに一貫性を持たせようと試みました。

引き続き行われたシンポジウムのタイトルは「地球サブシステムとしての粘土圏の役割—環境親和物質としての粘土—」で、「環境親和粘土総論」の部で2件、「環境親和粘土各論」の部で5件の講演が行われました。総合討論では「Claysphere」または「粘土圏」の内容に関する論議が多数ありました。

懇親会は90名を越す参加者を得て討論会場近くの勝山館4F彩雲の間で開かれ、鳥居会員の司会で開催委員会代表挨拶、現会長挨拶、湊会員の音頭による乾杯と進められました。しばし歓談の後、井上ICC組織委員長から10件応募された13th ICCロゴマーク候補に対する上位得票3点が発表され、この中から今後さらに検討を加えて最終決定する旨紹介されました。再び歓談を経て、北川隆司会員から次の討論会は広島で開催される旨内々の予定が披露され、次期会長の山岸皓彦会員による挨拶で会を閉じました。

ポスターセッションは2日目朝9時から随時貼り付けを開始し、12時から午後3時まで終始熱心な討論が行われました。ポスター討論の時間を十分取れるように、昼食の時間を前後するための補助として会場の一角に若干のお菓子も準備しました。

総会はその成立確認を経て鳥居会員が議長に選出されました。冒頭、逝去会員への黙禱が捧げられ、次いで中沢現会長から本学会会員の微増傾向にあること等挨拶があり、報告事項、審議事項と順調に進められました。そして、高木克彦会員(学会賞)、林剛会員(功績賞)、鬼形正伸会員(奨励賞)、核燃料サイクル開発機構(技術賞)、中川昌治会員、井上耕三氏(代表)(論文賞)が表彰されました。総会の後、山岸皓彦新会長のもと改選後の新しい平成15年度評議員会と常務委員会が持たれました。なお、発表時35歳までの者を対象とする優秀講演者賞には口頭発表の部14件、ポスター発表の部18件の応募があり、討論会終了後地下まゆみ、笹井亮(以上口頭発表の部)、楊培潔(以下ポスター発表の部)、石川奈緒、安藤生大の各氏に贈られました。

最終的に今討論会の総登録者数は200名(会員116名、学生会員46名、非会員38名)でした。また、講演は一般口頭発表56件、ポスター発表64件、特別講演1件、シンポジウム講演7件で、幸いにもキャンセルはなく、すべて予定通り行われました。運営については細部に至るまで常務委員長、学会事務局、前開催委員会代表の諸氏に丁寧なご指導を賜り、かつ、不手際をカバーして頂きました。また、シンポジウム並びに休憩時間のない一般口頭発表のスケジュールをほぼ予定の時間通りに進めていただいた合計16名の座長と様々な形でご協力を頂いた関係諸氏に厚く謝意を表します。

(南條正巳)

第46回 粘土科学討論会風景

シンポジウム

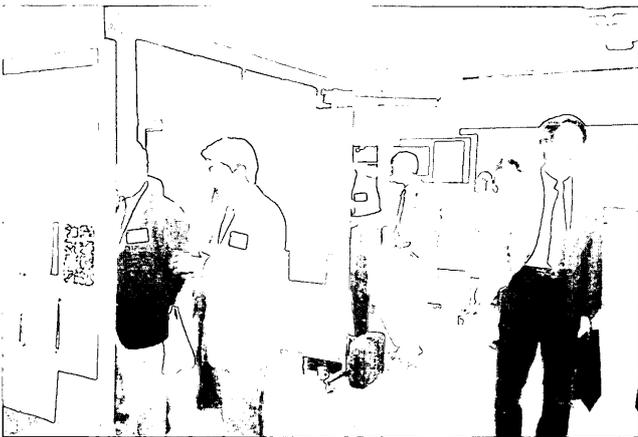
「地球サブシステムとしての粘土圏の役割」
—環境親和物質としての粘土—



会場 東北大学農学部



丸茂克美会員



ポスターセッション 第1会場



長沼 毅氏



第2会場

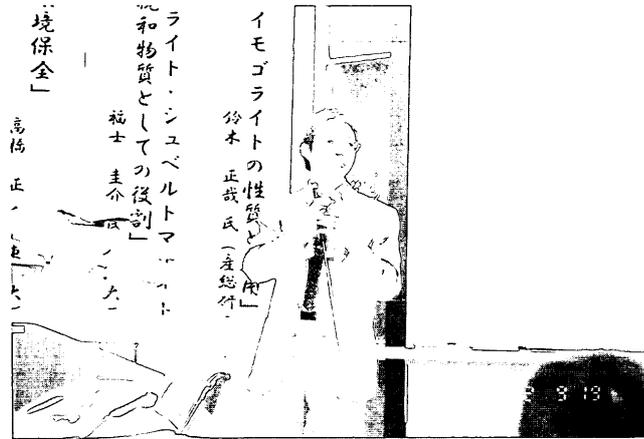


小野寺嘉郎会員

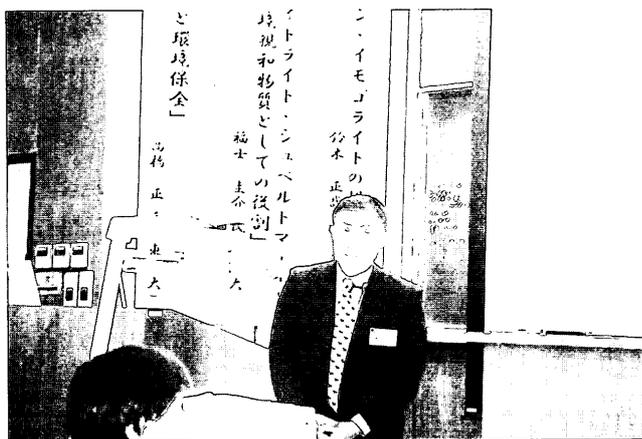
シンポジウム



日比野俊行会員



高橋 正会員

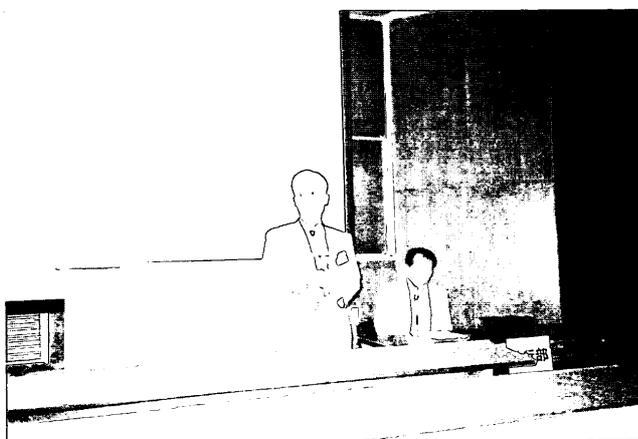


鈴木正哉会員



福土圭介会員

総 会



中沢弘基会長

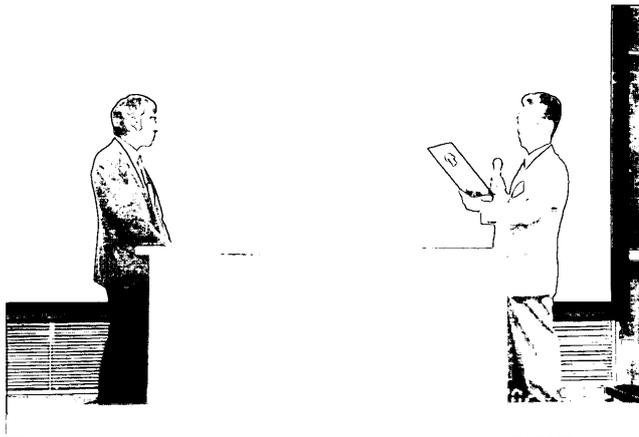


坂本尚史常務委員長

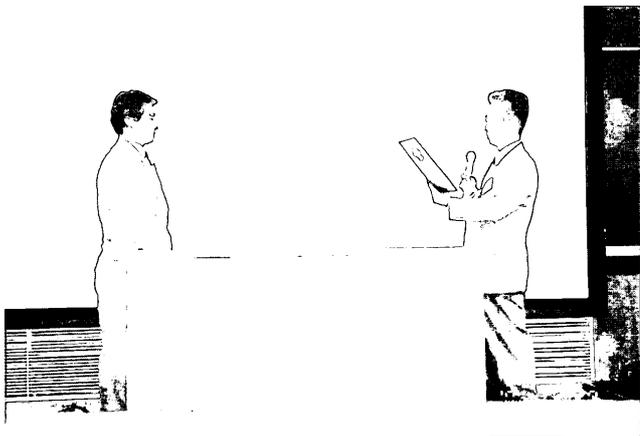
表彰



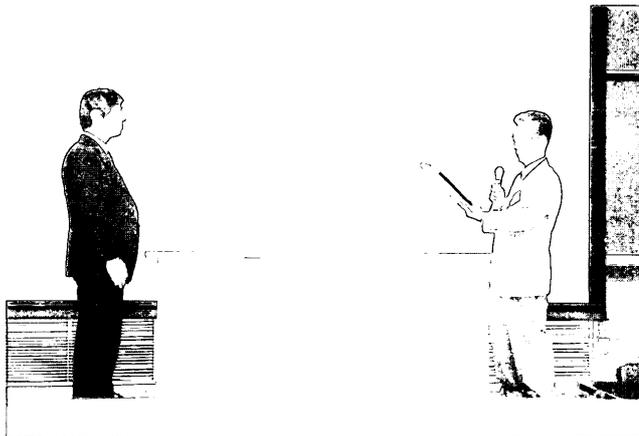
学会賞 高木克彦会員



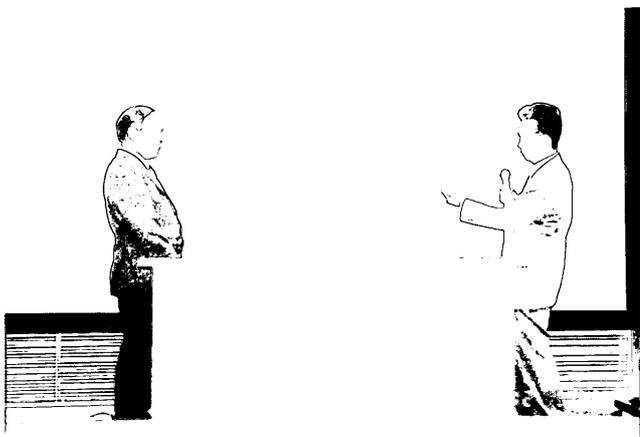
功績賞 林 剛会員



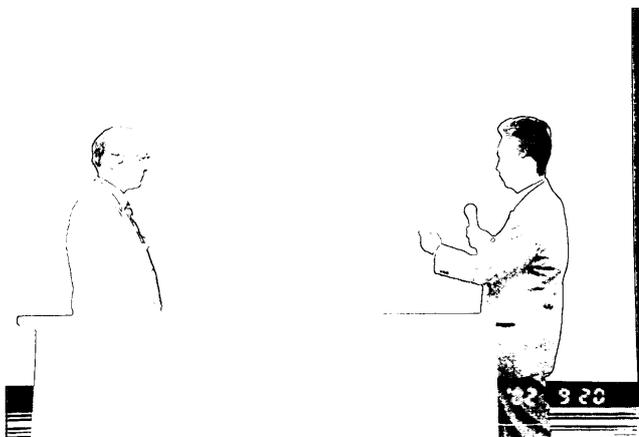
奨励賞 鬼形正伸氏



技術賞 核燃料サイクル開発機構

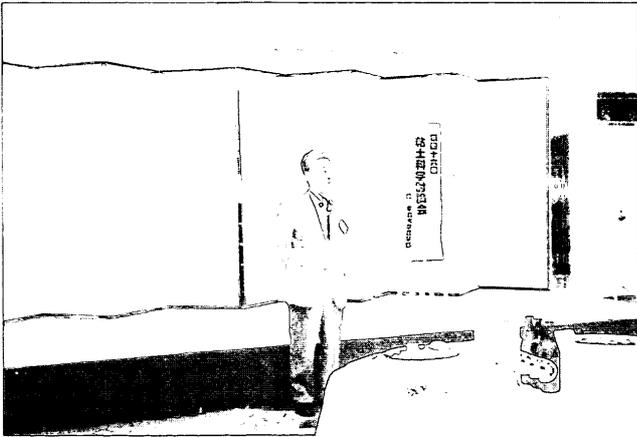


論文賞 (粘土科学) 中川昌治会員

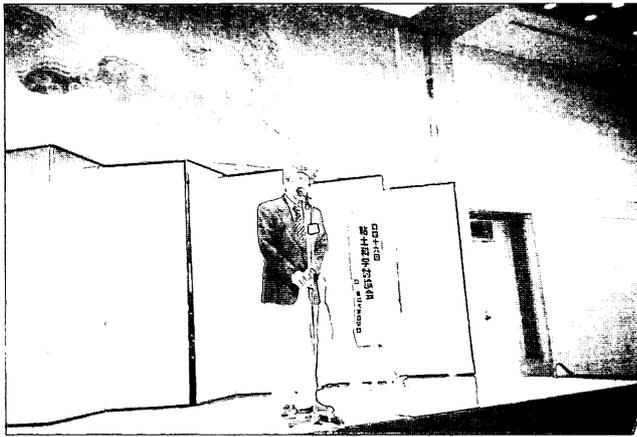


論文賞 (Clay Science) 井上耕三会員

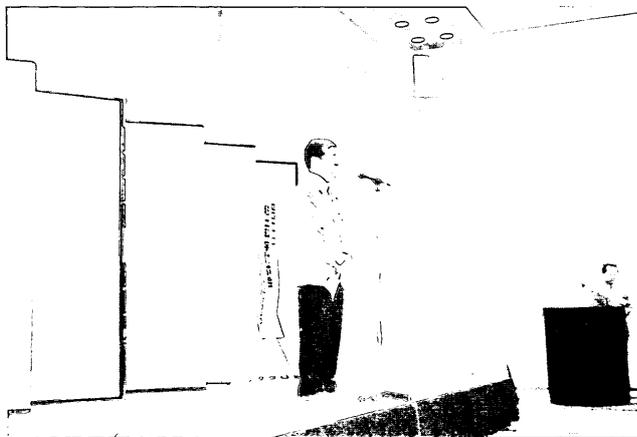
懇親会



前粘土学会会長 中沢弘基前会長



新粘土学会会長 山岸皓彦会長



行事委員 南條正巳会員